

氏 名	大野 曜吉
職 名	法科大学院客員教授

[略 歴]

年 月	事 項
昭和 53 年 3 月	東北大学医学部卒業
昭和 57 年 3 月	東北大学大学院博士課程医学研究科社会医学系法医学専攻修了
昭和 57 年 4 月	東北大学医学部法医学教室・助手（～昭和 60 年 5 月）
昭和 60 年 6 月	琉球大学医学部法医学教室・助手（～昭和 60 年 10 月）
昭和 60 年 11 月	琉球大学医学部法医学教室・助教授（～平成 2 年 5 月）
平成 2 年 6 月	日本大学医学部法医学教室・助教授（～平成 4 年 4 月）
平成 3 年 11 月	東京都監察医務院・非常勤監察医（～平成 30 年 3 月）
平成 4 年 5 月	日本医科大学大学院医学研究科社会医学系法医学分野・教授及び同大学法医学教室主任（～平成 31 年 3 月）
平成 10 年 4 月	早稲田大学法学部・講師 同大学院法学研究科・講師（～平成 18 年 3 月）
平成 16 年 4 月	早稲田大学法務研究科・講師
平成 23 年 4 月	専修大学法科大学院客員教授
平成 26 年 9 月	慶應義塾大学法科大学院・講師
平成 31 年 4 月	日本医科大学名誉教授

[社会における活動等]

年 月	事 項
平成 6 年 4 月	名古屋空港中華航空機事故身元確認に協力
平成 7 年 1 月	阪神・淡路大震災死体検案・身元確認に協力
平成 20 年 11 月	中国山西医科大学客座教授（第 1 6 7 号）
平成 23 年 3 月	東日本大震災死体検案・身元確認に協力
平成 23 年 9 月	中国浙江警察学院名誉教授（～平成 26 年 9 月）
平成 26 年 4 月	法務省刑事施設被収容者不服審査調査検討会委員（～平成 29 年 3 月）
平成 27 年 9 月	中国浙江警察学院名誉教授（～2020 年 9 月）
平成 27 年 9 月	中国西安交通大学医学部客座教授（～平成 30 年 9 月）

[主な研究業績等]

著書、学術論文等の名称	発行または発表の年月	備 考
著書（分担：主なもののみ）		
1. 事件からみた毒トリカブトからサリンまで－ 一章 一酸化炭素毒殺事件とトリカブト事件 ある保険金殺人の記録. (株)化学同人. 1-32.	平成 13 年	
2. 賠償科学概説－医学と法学との融合－日本賠償科学会, 民事法研究会. 74-79, 416-422.	平成 19 年	
3. 臨床法医学テキスト（第 2 版） 第 12 章 賠償医学. 中外医学社.	平成 24 年	

285-300.		
4. 賠償科学 改訂版－医学と法学との融合－日本賠償科学会, 民事法研究会. 79-84, 449-455.	平成 25 年	
論文 (主なもののみ)		
1. Ohno.Y. et al. A Simple Method for Calculating the Probability of Excluding Paternity with Any Number of Codominant Alleles. Forensic Sci.Int. 19. 93-98.	昭和 57 年	
2. Ohno.Y. et al. Calculation of the True Length from Length and Width of an Open Wound. Res.Pract.Forens.Med. 33. 103-106.	平成 2 年	
3. Ohno.Y. et al. The Influence of Tetrodotoxin on the Toxic Effects of Aconitine in vivo. Tohoku J. Exp. Med. 167. 155-158.	平成 4 年	
4. Ohno.Y. The Experimental Approach to the Murder Case of Aconite Poisoning. Journal of Toxicology. -Toxin Reviews-. 17(1). 1-11.	平成 10 年	
5. Ohno.Y. Tetrodotoxin-Mediated Delay in Aconitine Toxicity-A Murder in Okinawa. Forensic Science Review.26(2).139-144.	平成 26 年	
6. 大野曜吉他. 42 種の索条で緊縛された特異な死体例. 法医学の実際と研究. 22. 187-196.	昭和 54 年	
7. 大野曜吉他. 連続嬰兒殺事件. 法医学の実際と研究. 24. 83-88.	昭和 56 年	
8. 大野曜吉他. 保険金殺人事件. 法医学の実際と研究. 25. 85-88.	昭和 57 年	
9. 大野曜吉他. 感電による他殺の 1 例. 法医学の実際と研究. 30. 185-189.	昭和 62 年	
10. 大野曜吉他. 頭部の発見されないバラバラ殺人事件の死因鑑定例. 法医学の実際と研究. 32. 269-276.	平成元年	
11. 大野曜吉他. 無限円柱モデルによる直腸温降下曲線法のコンピュータシミュレーションプログラム. 法医学の実際と研究. 33. 335-341.	平成 2 年	
12. 大野曜吉他. 「病死か災害死か」民事鑑定例. 法医学の実際と研究. 34. 231-235.	平成 3 年	
13. 大野曜吉. 直腸温降下曲線法による死後経過時間推定. 日医大誌. 60 (2). 1-6.	平成 5 年	
14. 大野曜吉他. 法医鑑定の立場から (2) 創傷鑑定の読み方 “連載 科学鑑定の動き 8”. 季刊 刑事弁護. 11 autumn. 106-110.	平成 9 年	
15. 大野曜吉他. 法医鑑定の立場から (4) 薬物鑑定の読み方 “連載 科学鑑定の動き 10”. 季刊 刑事弁護. 13. 134-140.	平成 10 年	
16. 大野曜吉他. ある殺人事件裁判に関する直腸温および胃内容についての人体実験例. 法医学の実際と研究. 45. 181-187.	平成 14 年	
17. 大野曜吉. 保険金支払紛争例における鑑定 : 鑑定人の立場から. 賠償	平成 15 年	

科学. 29. 37-45.		
18. 大野曜吉. アコニチン毒に関する法医中毒学的検証実験. 日本法医誌. 60. 101-109.	平成 18 年	
19. 大野曜吉. 東日本大震災における検案活動. 日医大医会誌. 7(S). 26-29.	平成 23 年	
20. 大野曜吉. トリカブト毒性のフグ毒による遅延作用: 沖縄トリカブト殺人事件. 法医学の実務と研究. 60. 1-7	平成 29 年	